

平成20年度 事業報告書（概要）

（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）

学校法人 奈良学園

〈 目 次 〉

I. はじめに	P. 1
II. 法人の概要	P. 2～4
1. 沿革	(P. 2)
2. 法人本部及び設置する学校の所在地	(P. 2)
3. 役員 の 状 況	(P. 3)
4. 評議員 の 状 況	(P. 3)
5. 専任教職員 の 状 況	(P. 3)
6. 学校別の土地及び建物	(P. 4)
7. 全体地図 (奈良学園キャンパス位置図)	(P. 4)
III. 事業の概要	P. 5～8
1. ハイライト	(P. 5～6)
(1) 登美ヶ丘キャンパス開設	(P. 5)
(2) 奈良学園中学校・高等学校校舎改築着手	(P. 5)
(3) 奈良学園セミナーハウス (志賀直哉旧居) 修復工事開始	(P. 6)
(4) 高田キャンパス再開発始動	(P. 6)
2. 設置校の主な事業と進捗状況	(P. 7～8)
(1) 奈良産業大学	(P. 7)
(2) 奈良文化女子短期大学	(P. 7)
(3) 奈良文化高等学校	(P. 7～8)
(4) 奈良学園中学校・高等学校	(P. 8)
(5) 奈良学園幼稚園・小学校・ 奈良学園登美ヶ丘中学校	(P. 8)
(6) 奈良文化女子短期大学附属幼稚園	(P. 8)
IV. 財務の概要	P. 9～13
1. 平成20年度決算の概要	(P. 9～13)
(1) 資金収支の概要	(P. 9)
(2) 消費収支の概要	(P. 10)
(3) 貸借対照表の概要	(P. 11)
(4) 平成20年度財産目録 (概要)	(P. 12)
(5) 監査報告書	(P. 13)

I. はじめに

学校法人奈良学園は、平成 19 年度に引き続いて、理事会・評議員会・監査組織・法人事務組織の機能強化と体制整備に取り組むとともに、平成 20 年 6 月 1 日には、理事・監事・評議員の構成の抜本的な見直しを行い、新体制による法人運営を開始した。

さらに、平成 20 年度から第二次中期計画の初年度をスタートさせ、法人としての運営方針を透明かつ明確にした上で、さまざまな改善・改革に取り組んでいる。その根本精神には、下記の「奈良学園教育ルネサンス」がある。

また、奈良市登美ヶ丘のキャンパスを、奈良学園における 4 つ目のキャンパスとして開設することにより、幼稚園・小学校・中学校を追加し、7 校 2 園の運営を開始するとともに、登美ヶ丘における平成 21 年 4 月の高等学校開校の準備も行った。

さらに、郡山キャンパスにおける奈良学園中学校・高等学校の校舎改築工事への着手や、高田キャンパスにおけるキャンパス再開発計画の始動、さらには、志賀直哉旧居の平成の修復工事への着手など、さまざまな取り組みを進めた。

学校法人奈良学園第二次中期計画に謳う 「奈良学園教育ルネサンス」の根本精神

- ①人間中心主義…園児・児童・生徒・学生・教職員等全ての学園構成員が大切にされる。
- ②教学中心主義…魅力ある教育体制の確立。
教育内容の充実、教育指導力の向上。
- ③本物一流主義…本物志向で一流を目指す。
- ④公正公平主義…コンプライアンスの確立。(倫理基準や行動指針の策定)
公正な人事と処遇。
- ⑤安全安心主義…教育の根底は子どもの命を守り育む営み。

この取り組みを確実に実行していくことにより、奈良学園の教育目標の達成に向けた歩みを着実に進めていきます。(平成 20 年 2 月)

II. 法人の概要

1. 沿革

昭和 36. 3	学校法人中和学園設置認可。
昭和 40. 1	奈良文化女子短期大学教養科及び奈良文化女子短期大学附属高等学校の設置認可。 教養科入学定員 100 人、附属高等学校入学定員 100 人、4 月 1 日開校。
昭和 42. 1	奈良文化女子短期大学附属幼稚園の設置認可。 総定員 180 人、4 月 1 日開園。
昭和 45. 4	学校法人奈良学園に名称変更を行う。
昭和 54. 1	奈良学園中学校、奈良学園高等学校設置認可。 中学校入学定員 90 人、高等学校入学定員 90 人、4 月 1 日開校。
昭和 58.12	奈良産業大学の設置認可。 経済学部経済学科入学定員 120 人、経営学科 120 人、昭和 59 年 4 月 1 日に開学。
平成 19. 4	奈良文化女子短期大学附属高等学校を奈良文化高等学校に校名変更。
平成 19. 6	法人本部を奈良県大和高田市東中 127 番地から奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目 15 番 1 号に移転。
平成 20. 3	奈良学園幼稚園、奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校設置認可。 幼稚園総定員 155 人、4 月 1 日開園。 小学校入学定員 120 人、中学校入学定員 200 人、4 月 1 日開校。
平成 21. 3	奈良学園登美ヶ丘高等学校設置認可。 入学定員 225 人、4 月 1 日開校。

2. 法人本部及び設置する学校の所在地

平成 20 年 5 月 1 日現在

学 校 名	住 所
法人本部	〒631-0003 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良産業大学	〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北 3-12-1
奈良文化女子短期大学	〒631-8523 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化高等学校	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良学園高等学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園中学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園登美ヶ丘中学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園小学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園幼稚園	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1

3. 役員の状況（平成21年3月31日現在）

※理事定数8人以上12人以内【現員9人】 監事定数2人又は3人【現員2人】

理事長（常勤）	西川 彭	学園長
理事（常勤）	吉井 弘 侑	学校長の互選による
理事（常勤）	松田 親 典	学校長の互選による
理事（常勤）	仁後 公 幸	学校長の互選による
理事（常勤）	平尾 透	評議員会の選任による
理事（常勤）	佐藤 至 則	評議員会の選任による
理事（非常勤）	甘利 治 夫	学識経験者
理事（非常勤）	梅屋 則 夫	学識経験者
理事（非常勤）	中本 勝	学識経験者
監事（常勤）	結城 義 久	
監事（非常勤）	里見 喜 隆	

4. 評議員の状況（平成21年3月31日現在）

※評議員定数21人以上25人以内【現員24人】

法人職員	平尾 透 勝川育司 松岡雅一 東中章晃 久保 守 古川謙二 福永吉延 大谷優子 佐藤至則	学園卒業生	川戸昭人 光安寿一 池田順子 櫻井秀子 小鶴和美 出原雅代 岡下慎太郎 宮坂光行	学識経験者	朝廣佳子 小原壮一 加藤正二 阪本道隆 田村雅宥 西川 彭 橋本俊雄
------	--	-------	---	-------	--

5. 専任教職員の状況（平成20年5月1日現在）

※学長・副学長・校長・園長・副校長・教頭は除く

学校名	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭	助教諭	職員	計
奈良産業大学	39	16	10	2	0	0	0	41	108
奈良文化女子短期大学	6	7	7	0	0	0	0	15	35
奈良文化高等学校	0	0	1	0	0	40	0	6	47
奈良学園高等学校	0	0	2	0	0	33	0	6	41
奈良学園中学校	0	0	8	0	0	21	0	3	32
奈良学園登美ヶ丘中学校	0	0	6	0	0	5	1	3	15
奈良学園小学校	0	0	3	0	0	5	0	3	11
奈良学園幼稚園	0	0	1	0	0	4	0	1	6
奈良文化女子短期大学 附属幼稚園	0	0	2	0	0	5	0	3	10
法人本部	0	0	0	0	0	0	0	24	24
合 計	45	23	40	2	0	113	1	105	329

6. 学校別の土地及び建物（平成20年5月1日現在）

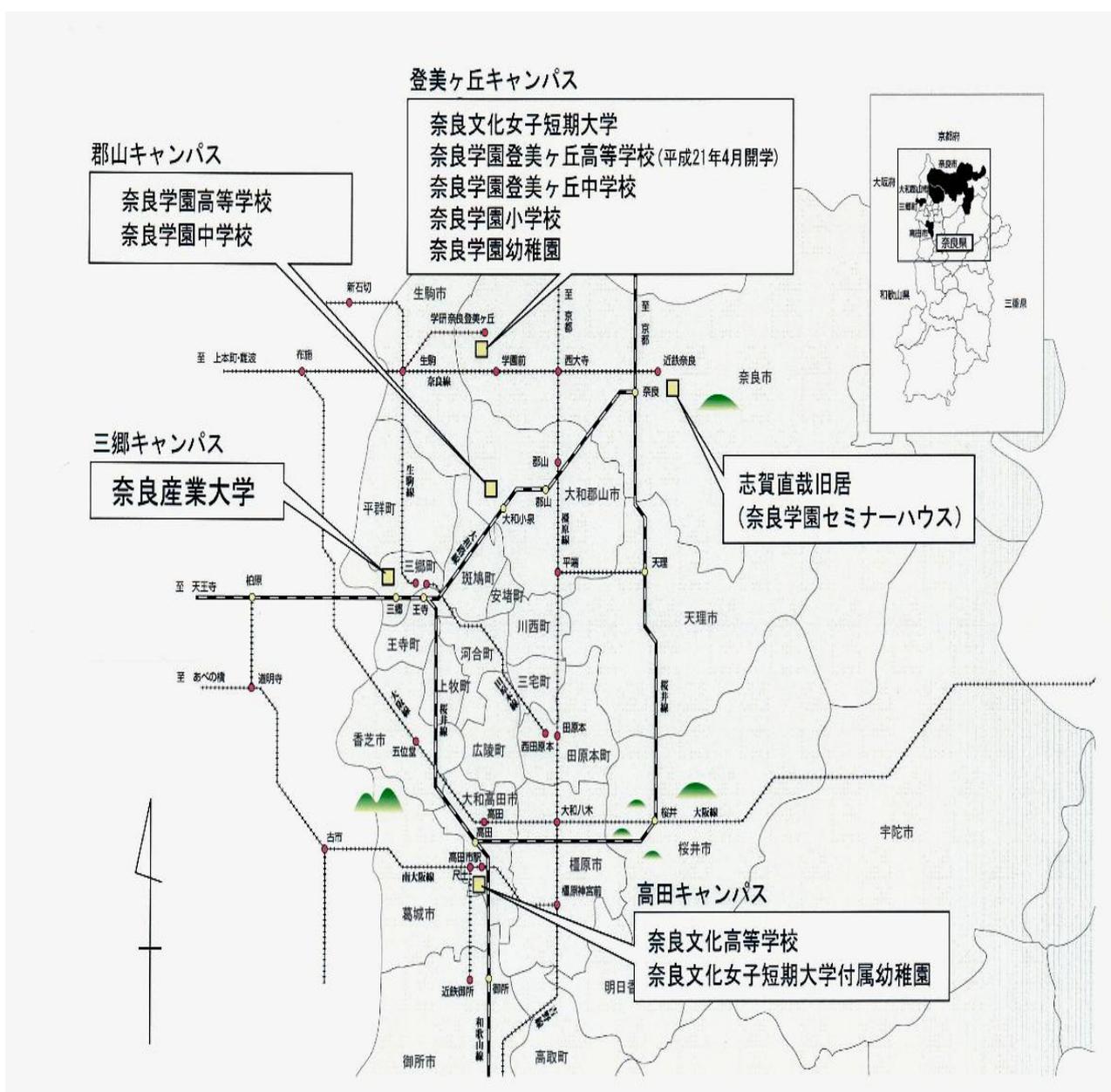
【土地面積】

奈良産業大学	203,745 m ²
奈良文化女子短期大学	68,217 m ²
奈良文化高等学校	39,402 m ²
奈良学園中学校・高等学校	96,452 m ²
奈良学園登美ヶ丘中学校	19,722 m ²
奈良学園小学校	8,421 m ²
奈良学園幼稚園	1,812 m ²
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	4,564 m ²

【建物面積】

奈良産業大学	32,224 m ²
奈良文化女子短期大学	36,517 m ²
奈良文化高等学校	9,276 m ²
奈良学園中学校・高等学校	13,791 m ²
奈良学園登美ヶ丘中学校	8,052 m ²
奈良学園小学校	9,567 m ²
奈良学園幼稚園	2,249 m ²
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	1,452 m ²

7. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）

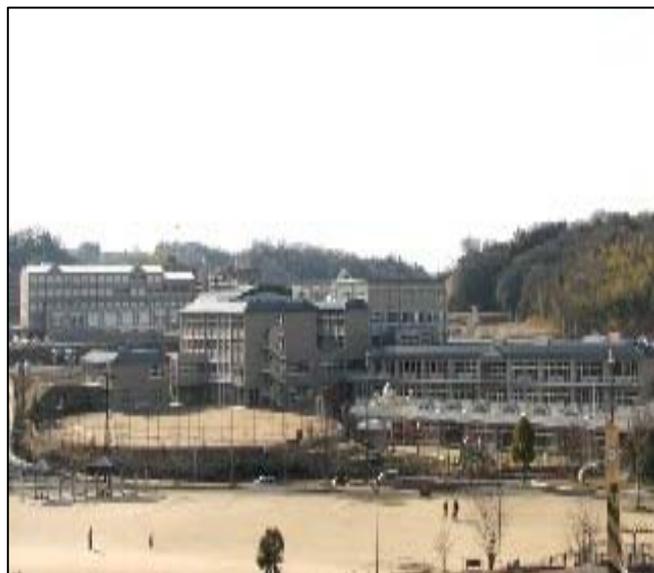


Ⅲ. 事業の概要（平成 20 年度）

1. ハイライト

（1）登美ヶ丘キャンパス開設

平成 20 年 3 月 28 日、「関西文化学術研究都市」に繋がる奈良市中登美ヶ丘の地に、学校法人奈良学園 4 番目のキャンパスを開設した。この登美ヶ丘キャンパスには、奈良学園幼稚園・奈良学園小学校・奈良学園登美ヶ丘中学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校（平成 21 年 4 月開校予定）を設置し、建学の精神「自ら生きて生きる」を礎に、「和の精神」を大切にし、「逞しく生きる力」を育み、「科学的に物事を見る力」を身につける



15 年一貫教育（3+4-4-4 年）が行われる。高田キャンパスから奈良文化女子短期大学の移転も完了し、学園の歴史は新たな 1 ページを刻むこととなった。なお、本キャンパスには法人本部も設置している。

（2）奈良学園中学校高等学校校舎改築着手

奈良学園中学校・高等学校が大和郡山の地に開校して、約 30 年の年月が経過し、校舎の老朽化が序々に進行してきた。中学校・高等学校では、校舎を建て替える計画をスタートするにあたり、単なる校舎の建て替えに止まらず、教員と生徒が手を携えて新校舎の計画を作成することとした。「奈良学園スクールプロジェクト」と名付けられた一連の活動は、3 点の共通コンセプト（①環境に配慮したキャンパス、②過ごしやすいキャンパス、③憩いの場、コミュニケー



ケーションスペースをつくる)のもと、生徒たちの学びを深め、文化祭での生徒発表会など大きな広がりを見せた。報道にも度々取上げられ、彼らのアイデアを盛り込んだ新校舎案がついに完成した。それをもとにして平成 20 年 6 月、待望の工事を開始した。

(3) 奈良学園セミナーハウス（志賀直哉旧居）修復工事開始



白樺派の文豪「志賀直哉」が自ら設計し、昭和4年から9年間住んだ旧居は、直哉の転居後、民間人の関氏、米軍、厚生省と持ち主が変わるたびに増改築を重ね、直哉が住んでいた時代とは異なるものとなっていた。また築後80年を経過し、老朽化も急激に進行していたため、現在旧居を所有管理している本学園では、当時の写真をもとに調査し、直哉が住んでいた時代を忠実に再現するように修復工事を開始した。工事は平成20年11月より着手し、平成21年4月28日に完成予定で進められた。修

復工事中も安全に配慮し、可能な限り見学できるようにしており、工事の内容はホームページ (<http://www.naragakuen.jp/>) において随時公開した。

(4) 高田キャンパス再開発始動



学園にとって発祥の地である「高田キャンパス」を再開発するにあたり、存続・発展を図るという基本方針のもと、以下に挙げる3点の具体的施策を重要な指針とした。1. 再開発委員会を設置し、全学で検討を進める。2. 奈良文化高等学校と奈良文化女子短期大学附属幼稚園を中心に計画する。3. 地域との意見交換をもとに幅広い視野で考察する。これらを念頭に置き、検討を進め、奈良文化高等学校は「女子校」として、奈良文化女子短期大学附属幼稚園は現在の場所での発展を目

指し、奈良文化女子短期大学も高田キャンパスで活動する、さらには余剰地が発生するが、各校・園との相乗効果が発揮できる施設を計画するとの「再開発事業方針」が承認された。これを受けて、今後は設計作業段階へと歩みを進める。

2. 設置校の主な事業と進捗状況

(1) 奈良産業大学

- ・組織面では、学長を中心とした大学組織の機能を充実したほか、国際交流センターの設置や、学修支援センターの学生支援センターへの改組による、学生相談機能の強化を図り、平成 21 年 4 月からの設置を決定した。
- ・教育環境の面では、GPA 制度での評価の学務システムへの組み込みとデータ蓄積の準備が整ったほか、資格取得のための講座充実と授業科目への連携、インターシップ受入企業開拓による参加者の 4 割アップ、分かりやすいシラバスの作成や、キャリアカウンセリング体制の整備、FD の充実と授業改善、大学で学ぶ前の事前教育とプレゼミ、地域貢献のための公開講座などを行った。
- ・学生募集の面では、奨学金による経済支援体制を強化し、スポーツ学生と外国人留学生を確保した結果、入学者の大幅増加に結びついた。
- ・事務面では、学務システムと図書館システムのリニューアルのほか、WEB による履修システムを導入し、平成 21 年 4 月からの環境改善の準備が整った。
- ・施設整備の面では、食堂と情報処理教室のリニューアルのほか、8 号館を改築してスポーツ交流会館を建設した。

(2) 奈良文化女子短期大学

- ・教育環境の面では、ソーシャルスキル演習による躰教育や、子ども学ゼミによる探究心・コミュニケーション力・表現力の育成、FD 活動による教育力の向上を図ったほか、GPA 制度の平成 21 年度からの導入準備が整ったことや、長期履修制度および保幼小連携の検討を行い、平成 21 年度から実行に移すことができるようになった。
- ・地域貢献では、各種公開講座の開講や専門性を生かした地域への情報発信のほか、グリーンボランティアと名づけた清掃活動を行った。また 1 号館 5 階に親と子の相談室「ひまわり」、アリーナに地域未就園児の支援を目的とする「ちびっこ広場」を開設することによる子育て支援の体制が整った。
- ・学生募集の面では、奨学金による経済支援体制を強化し、オープンキャンパスや教員対象説明会を充実することにより、入学者はやや増加に転じた。
- ・施設整備の面では、高田キャンパス再開発に係る短大セミナーハウス設置の提案を行ったほか、高田図書館から登美ヶ丘に一部書籍を移動し、機能の向上を図った。
- ・その他、幼児教育学科第三部のホームカミングデーを開催することにより、同窓会との関係強化を図るとともに、教員免許更新講習会も実施した。

(3) 奈良文化高等学校

- ・教育環境の面では、コースの特色を明確にするとともに普通科のカリキュラムを更新し、女子教育として特色のある学習内容を打ち出したほか、5 年間を通した看護師教育の検討を開始し、授業公開による指導方法の改善を行い、生徒にはシラバスを全員に配布し、学習計画と評価基準の明示を図った。
- ・交流行事として、地域への奉仕活動やイベントへの参加を行い、附属幼稚園には体育大会や文化祭に参加してもらい、生徒と園児の交流を図った。

- ・看護師試験の合格率の向上を目指した資格試験対策にも取り組んだ。
- ・生徒募集の面では、女子教育の充実をアピールするとともに、広報活動を積極的に行ったほか、学業特待生制度も導入した。また福祉コースを保育・福祉コースに改称し、広報活動を行った結果、入学者の増加に結びついた。
- ・施設整備の面では、高田キャンパス再開発計画の中で、奈良文化高等学校の進む道を女子校と結論付け、事業計画に盛り込んだ。

(4) 奈良学園中学校・高等学校

- ・教育環境の面では、特進コース・医進コースの特色を強化すべく、体験型授業を充実させたほか、少人数授業の実施、海外短期研修の計画、英検ソフトの導入による自学自習の環境整備、教科ごとの研究授業の継続、シラバスの改訂などを行い、S P Pの取得による特別講座の実施や、S S Hの指定に向けた準備なども進めた。
- ・施設整備の面では、次世代教育の学び舎となる校舎棟の改築に着手するとともに、スクールプロジェクトも継続し、生徒の意見を校舎建築に反映しているほか、ホテル・里山再生計画にも取り組み、サッカーグラウンドの人工芝化やテニスコート改修、大グラウンドの整備に続く体育施設の整備計画にも取り組んだ。

(5) 奈良学園幼稚園・小学校・登美ヶ丘中学校

- ・登美ヶ丘キャンパスでは、20年4月に奈良学園幼稚園・小学校と奈良学園登美ヶ丘中学校が開校し、順調に一年が経過した。
- ・教育環境の面では、Pre-Primary（幼稚園）、Primary（小1～小4）、Middle（小5～中2）それぞれの発達段階に応じた教育を行うとともに、12年一貫教育における学びの連続と、小・中・高とつながる校種間の連携を図るため、各学年の指導内容の調整を行った。さらに、各校種で作成された年間指導計画が、登美ヶ丘の教育理念と教育目標に合致しているかどうか、再度の確認作業を行っている。
- ・通学対策として、駅や交差点にスクールガードを配置し、児童・生徒の安全確保に努めるとともに、学園前と高の原の各駅との間にスクールバスの運行を開始し、安全で安心できる体制を整えた。
- ・施設整備の面では、Youth（中3～高3）のためのY棟、および中高用体育館を建設し、目標とする施設面の教育環境が概ね整った。

(6) 奈良文化女子短期大学附属幼稚園

- ・教育環境の面では、教員の増員による学級担任制が整うとともに、技能員の配置やバス1台の追加投入も行った結果、園児に対するきめ細やかな対応が可能となったほか、奈良文化高等学校の協力による新体操教室や、英語で遊ぼうなどの活動が充実に向かい、同時に、環境整備の面でも保育室冷暖房設備、廊下シャッター及び行事調度品等にいたるまで、整えられ、質の高い教育環境が出来上がった。また、高田キャンパス内で給食の調理を行うようにしたため、自園調理並みの給食が提供できるようになった。
- ・教員の研修において、茶道教室を開催し、他園を参観することにより、教員の魅力向上に成果が得られた。

IV. 財務の概要

1. 平成 20 年度決算の概要

(1) 資金収支の概要

当年度資金収入は 9,021 百万円、当年度資金支出は 12,453 百万円となり、次年度繰越支払資金は 6,288 百万円で前年度に比べ 3,431 百万円減少した。

当年度は、登美ヶ丘キャンパスの校舎建設、郡山キャンパスの校舎建替等の施設及び設備の整備を実施した結果、施設関係及び設備関係で、あわせて 3,164 百万円を支出した。

なお、引当特定資産として登美ヶ丘校通学バス引当特定預金に 140 百万円を積立てた。

平成 20 年度 資金収支計算書

(平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,170,693,000	2,179,498,507	△ 8,805,507
手数料収入	55,690,000	51,736,140	3,953,860
寄付金収入	198,381,000	198,382,909	△ 1,909
補助金収入	547,610,000	668,633,940	△ 121,023,940
地方公共団体補助金収入	547,245,000	668,321,940	△ 121,076,940
その他補助金収入	365,000	312,000	53,000
資産運用収入	461,739,000	453,367,877	8,371,123
資産売却収入	3,930,392,000	3,932,893,550	△ 2,501,550
事業収入	61,518,000	58,794,693	2,723,307
雑収入	33,884,000	57,328,948	△ 23,444,948
前受金収入	413,325,000	349,202,980	64,122,020
その他の収入	1,382,998,000	1,442,774,748	△ 59,776,748
資金収入調整勘定	△ 438,966,000	△ 370,653,671	△ 68,312,329
前年度繰越支払資金	9,719,653,030	9,719,653,030	
収入の部合計	18,536,917,030	18,741,613,651	△ 204,696,621

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,062,950,000	3,001,922,570	61,027,430
教育研究経費支出	825,611,000	748,523,269	77,087,731
管理経費支出	376,181,000	325,223,995	50,957,005
施設関係支出	2,871,255,000	2,859,138,862	12,116,138
設備関係支出	387,081,000	305,505,273	81,575,727
資産運用支出	3,546,576,000	3,686,576,000	△ 140,000,000
その他の支出	1,391,296,000	1,908,133,605	△ 516,837,605
資金支出調整勘定	△ 124,088,000	△ 381,684,954	257,596,954
次年度繰越支払資金	6,180,055,030	6,288,275,031	△ 108,220,001
支出の部合計	18,536,917,030	18,741,613,651	△ 204,696,621

(2) 消費収支の概要

当年度帰属収入は 3,710 百万円で基本金組入額 2,857 百万円を減じた消費収入は 853 百万円となった。一方、消費支出は 5,128 百万円を計上し、当年度の消費収支差額は 4,274 百万円の支出超過となった。主要因は、登美ヶ丘キャンパスの校舎建設、郡山キャンパスの校舎建替等の施設及び設備の整備を実施した結果、多額の基本金組入れを行ったことと、雑誌の除却により多額の資産処分差額を計上したことにある。

予算と比較すると、帰属収入は地方公共団体からの補助金の増加等により、212 百万円の増収となった。消費支出は教育研究経費・管理経費の減少等により、187 百万円の削減となった。

平成 20 年度 消費収支計算書

(平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,170,693,000	2,179,498,507	△ 8,805,507
手数料	55,690,000	51,736,140	3,953,860
寄付金	198,381,000	200,434,003	△ 2,053,003
補助金	547,610,000	668,633,940	△ 121,023,940
地方公共団体補助金	547,245,000	668,321,940	△ 121,076,940
その他補助金	365,000	312,000	53,000
資産運用収入	461,739,000	453,367,877	8,371,123
資産売却差額	0	7,402,150	△ 7,402,150
事業収入	61,518,000	58,794,693	2,723,307
雑収入	2,678,000	90,853,219	△ 88,175,219
帰属収入合計	3,498,309,000	3,710,720,529	△ 212,411,529
基本金組入額合計	△ 3,231,996,000	△ 2,857,054,072	374,941,928
消費収入の部合計	266,313,000	853,666,457	△ 587,353,457

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	3,039,559,000	3,034,612,908	4,946,092
教育研究経費	1,434,829,000	1,342,480,223	92,348,777
管理経費	474,905,000	419,210,783	55,694,217
資産処分差額	316,044,000	297,380,493	18,663,507
徴収不能引当金繰入額等	30,000,000	34,598,018	△ 4,598,018
消費支出の部合計	5,315,337,000	5,128,282,425	187,054,575
当年度消費支出超過額	5,049,024,000	4,274,615,968	
前年度繰越消費収入超過額	30,715,847,520	30,715,847,520	
翌年度繰越消費収入超過額	25,666,823,520	26,441,231,552	

(3) 貸借対照表の概要

当年度末の資産総額は81,820百万円で、前年度末に比べ1,537百万円の減少となった。登美ヶ丘キャンパスの校舎建設、郡山キャンパスの校舎建替等の施設及び設備の整備により、有形固定資産が2,142百万円増加した。また、有価証券の長期・短期による区分を明確にし、33,691百万円を流動資産から固定資産へ振替えた。その結果、その他固定資産が33,848百万円増加、固定資産合計では35,991百万円増加した。一方、流動資産は37,529百万円減少した。

総資金では、負債の合計が1,638百万円で前年度末に比べ119百万円減少した。また、基本金及び累積の消費収支差額の合計である自己資金は前年度末比1,417百万円減少の80,181百万円となった。

平成20年度 貸借対照表

(平成21年3月31日)

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	73,466,275,028	37,474,518,934	35,991,756,094
有形固定資産	39,615,329,907	37,472,337,434	2,142,992,473
その他の固定資産	33,850,945,121	2,181,500	33,848,763,621
流動資産	8,353,940,909	45,883,041,123	△ 37,529,100,214
資産の部合計	81,820,215,937	83,357,560,057	△ 1,537,344,120
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	841,206,087	842,040,020	△ 833,933
流動負債	797,015,820	915,964,111	△ 118,948,291
負債の部合計	1,638,221,907	1,758,004,131	△ 119,782,224
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	46,236,216,203	43,379,162,131	2,857,054,072
第2号基本金	7,171,010,689	7,171,010,689	0
第4号基本金	333,535,586	333,535,586	0
基本金の部合計	53,740,762,478	50,883,708,406	2,857,054,072
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	26,441,231,552	30,715,847,520	△ 4,274,615,968
消費収支差額の部合計	26,441,231,552	30,715,847,520	△ 4,274,615,968
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	81,820,215,937	83,357,560,057	△ 1,537,334,120

(4) 平成20年度 財産目録(概要)

財 産 目 録

科 目	20 年 度 末	
一 資産額		
(一) 基本財産		
1 土地	456,572.28㎡	19,523,780,903円
2 建物	118,545.04㎡	15,911,496,531円
3 図書	317,012冊 3,022点	1,048,767,485円
4 教具・校具・備品	21,843点	692,797,137円
5 構築物		953,161,320円
6 その他		1,417,621,652円
(二) 運用財産		
1 預金、現金		6,288,275,031円
2 特定預金		140,000,000円
3 有価証券		35,682,261,300円
4 不動産		87,425,700円
5 貯蔵品		2,681,708円
6 未収金		63,514,240円
7 前払金		7,286,730円
8 仮払金		1,146,200円
合 計		81,820,215,937円
二 負債額		
1 固定負債		841,206,087円
(1) 退職給与引当金		841,206,087円
2 流動負債		797,015,820円
(1) 未払金		377,442,521円
(2) 前受金		349,202,980円
(3) 預り金		70,370,319円
合 計		1,638,221,907円

(5) 監査報告書

監 査 報 告 書

平成 21 年 5 月 14 日

学校法人 奈良学園
理 事 会 御中
評議員会 御中

学校法人 奈良学園

常勤監事 結城 義久 ㊟

監 事 里見 喜隆 ㊟

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項に基づく監査報告を行うため、学校法人奈良学園の寄附行為第 10 条の規定に従い、学校法人奈良学園の平成 20 年度(平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、私たちが必要と認めた監査手続きを実施した。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

以上